

報告

子どもがラグビーを始めるとき
—台湾台北市でラグビーをする小学生へのアンケート調査結果—

“Why Do You Like to Play Rugby Football?”

—The Results of the Questionnaire Survey of the Rugby Football Players at an Elementary School in Taipei, Taiwan

原英子*
Eiko HARA,

Keywords: *the Great Eastern Earthquake, Rugby Football, Children*
東日本大震災、ラグビー、子ども

1. はじめに

台湾の台北市大同区に、太平国民小学校がある。日本ともかわりがある歴史の古い小学校である¹。2014年3月、釜石シーウェイブスジュニアの小学生は、東日本大震災による台湾からの支援により台湾遠征をおこなった²。一度目は東日本大震災の翌年、2012年3月におこなわれ、今回が二度目である。今回試合をしたのは、この台北市の太平国民小学校であった。

試合後、ラグビーの試合に参加した太平小学校の児童にラグビーをはじめのきっかけを調べるアンケート調査を実施した。その結果を報告する。

結果を報告するにあたって、まずは、対戦相手となった小学校について紹介しておくことにする。また、台湾の太平国民小学校と釜石シーウェイブスジュニアの試合やその結果等についてもふれておく。

2. 調査対象について

2-1. 歴史的変遷概観：台北市大同区太平国民小学校と日本のかかわり

釜石シーウェイブスジュニアチームの子どもたちが台湾遠征で試合をおこなった台北市大同区太平国民小学校は、歴史的にみると、日本と深い関係のある小学校である。日清戦争

(1894-95年)後の日清講和条約(下関条約)で、台湾は日本へ割譲された。それにより、台湾を領有することとなった日本は、日本語普及のため、1897年12月までに、台湾の16ヶ所

に国語伝習所(分教所を除く)をつくった(駒込1996:43-44)。そのひとつが台北国語伝習所であった。

1896年にはじまった台北国語伝習所の最初の卒業生は36名であった³。2年目は26名。領台後、通訳を速成するための15歳以上の成人層を対象とした甲科と、15歳以下の初等教育を施す乙科に分かれ、いずれも官費で維持されていた(駒込1996:43-44)。3年目の1898年には国語伝習所から大稻埕公学校となった⁴。この年、クラスは6クラスあり、在學生は154名と一気に増えた。その後、女子教育は他の学校に移った。学校制度も変遷し、1922年には太平公学校、1941年には台北市太平国民学校となった。やがて第二次世界大戦が終了し、1946年には台北市延平区太平国民学校と称している。戦後も学校制度や行政区分等の変更を経ながら、1990年に現在の台北市大同区太平国民小学となった。

2-2. 学校規模

学校規模は、公式サイトで人数の変遷を追うと、最大拡大時期が1962年から64年にかけてで、在學生数6,000人余りであった。1963年の6,279人が最多在學生数であった。この時の卒業生は15クラスで978人であった。それが2016年現在は、在學生数474人、卒業生は3クラスで81人となっている。釜石シーウェイブスジュニアのチームと試合をおこなった2014年は、在學生数525人、卒業生は5クラスで89人であった。

2-3. 課外活動

太平国民小学校は課外活動に熱心な学校で、ラグビーやバス

*国際文化学科

ケット、インラインスケート、舞踊といったスポーツ活動のほか、囲碁などの屋内クラブの活動もみられる。これらの課外活動ではシンガポールなど海外の学校との交流も盛んである⁵。今回の日本と台湾のラグビーの交流試合も、そうした太平国民小学の海外交流試合のひとつと位置づけられる。

太平国民小学校は公式サイトによれば、台湾の小学生ラグビー大会でもたびたび上位入賞を果たしている。2014年の台湾全国中正カップラグビー選手権大会（103年全国中正盃橄欖球錦標賽）では、小学生の第2クラス（中学年）で第2位となり、2015年台北市青年カップラグビー選手権大会（104年台北市青年盃橄欖球錦標賽）では、小学生チームで第2位を獲得している。また7人制ラグビーでも活躍している。2014年には全国7人制ラグビー選手権大会で第3位、新北市の7人制大会で第5位を獲得している⁶。

3 台湾台北市太平国民小学と釜石シーウェイブスジュニアのラグビー交流試合

台湾台北市大同区太平国民小学と釜石シーウェイブスジュニアのラグビー交流試合は、「被災地児童支援・国際ラグビー交流プロジェクト 日台キッズラグビー交流2014」としておこなわれた。2014年3月20日にチャーター便でいわて花巻空港から台湾へ出発し、23日にいわて花巻空港へ帰国するという3泊4日の遠征であった。

台湾での対戦相手、太平国小の子どもたちは13名、それにコーチ3名が試合に登録されていた。一方、釜石シーウェイブスジュニアの子どもたちは14名、コーチ3名、それに父兄4名と筆者が台湾遠征に同行した⁷。

第1回の台湾遠征に参加した当時4年生だった3人と3年生だった1人は、第2回の遠征ではそれぞれ6年生と5年生として参加した⁸。

3-1 試合とその結果

試合は2014年3月22日に、台北市の北にある台北市政府体育局が管理している百齡河川敷公園ラグビー場でおこなわれた。

1チーム9人の9人制であった。試合時間は変則的だったが、10分ずつの3回、合計30分の試合であった。試合はトライの数で決められ、釜石シーウェイブスジュニア対太平国小の1回戦は2対1、2回戦2対2、3回戦2対1の合計6対4で釜石シーウェイブスジュニアが勝った⁹。

4 アンケート調査

4-1 アンケート調査協力者

アンケート調査は、台北市大同区太平国民小学校でラグビー

をしている子どもたち25名に協力してもらった。

4-2 アンケート質問項目

アンケート調査で使用した質問項目は、2013年に釜石シーウェイブスジュニアチームの小学生や釜石市のラグビーの試合に参加した中学生におこなったアンケート調査をもとに作成した¹⁰。全部で10問である。言語は中国語を使用した。まずは質問を日本語に改めたものを、表1にまとめた。

表1 ラグビーをしている子どもたちへの質問

問1	あなたは、何年生ですか。
問2	あなたは男の子ですか。女の子ですか。
問3	何年生からラグビーをはじめましたか。
問4	家族や親戚でラグビーをしている人はいますか。（選択式、複数回答可）
問5	あなたはなぜラグビーを始めたのですか。 （選択式、複数回答可、自由記述箇所あり、特に1番目の理由があれば◎印をつけてもらった。）
問6	あなたはなぜラグビーをするのが好きなのですか。（選択式、複数回答可、自由記述箇所あり、特に1番目の理由があれば◎印をつけてもらった。）
問7	ラグビーはずっと続けたいですか。（選択式、自由記述箇所あり）
問8-1	あなたはラグビー以外のスポーツをしていますか。 （ある、なしの選択後、あるに印をつけた者にスポーツ名称の問い）
問8-2	ラグビーとそのほかのスポーツの好きの割合 （選択回答、その他数値記入式回答1問を加えた。）
問9	上記問題以外でラグビーについて何か書きたいことがあれば書いてください。
問10	何か感想があれば書いてください。

5. アンケート結果

以下、表1にまとめた各質問項目のアンケート結果について順に記していく。

<質問1 あなたは何年生ですか。>

小学6年 20名
小学5年 5名

<質問2 あなたは男の子ですか、女の子ですか。>

男子 24名
女子 1名

<質問3 ラグビーの開始学年>

小学4年生から 4名
小学5年生から 11名
小学6年生から 9名
無記入 1名

<質問4 家族や親戚のラグビー体験者>

いる 4名¹¹⁾
いない 19名
無記入 2名

いると回答した4名は、具体的には以下のような者がラグビー経験者だと答えている。

- (1) 父
- (2) 兄
- (3) 兄、姓の異なる年上の男性いとこ
- (4) 父、父の兄、兄、弟

家族や親戚での体験者数をもっとも多かったのは、(4)で、この回答者は女子であった。

<質問5 ラグビーを始めた理由>

表2 ラグビーを始めた理由

	1位	1位以外	合計
(1)父親がラグビーをしているから (1)-1 父親にすすめられたから			
(2)母親がラグビーをしているから (2)-1 母親にすすめられたから			
(3)兄弟がラグビーをしているから (3)-1 兄弟にすすめられたから		1名	1名
(4)姉妹がラグビーをしているから (4)-1 姉妹にすすめられたから			
(5)家に父・母・兄弟姉妹以外で ラグビーをしている人がいるから			
(6)幼稚園の先生に誘われたから		1名	1名
(7)小学校の先生に誘われたから		4名	4名
(8)ラグビーの先生や コーチに誘われたから	3名	17名	20名
(9)友だちがラグビーをしているから		5名	5名
(10)ラグビーの練習をみて自分も したくなったから		9名	9名
(11)ラグビーはカッコいいから	1名	7名	8名
(12)その他(理由の自由記述)	1名		1名

1位: ラグビーを始めた理由で1位に選択されたのがもっとも多かったのは「ラグビーの先生やコーチにさそわれたから」で、

3名であった。この選択枝を選んだ者は他に17名おり、全部で25名中20名が、ラグビーの先生やコーチの勧誘を、ラグビーを始めた理由にあげている。そのほか「小学校の先生に誘われたから」が4名で、このうち「ラグビーの先生やコーチに誘われたから」との回答もあわせて選択している者は3名であった。他には「幼稚園の先生に誘われた」とする者1名で、これはラグビーの先生やコーチ、小学校の先生から誘われた、という回答は選択していなかった。

2位: ラグビーを始めた理由として2番目に多かったのは、「ラグビーの練習をみて自分もしたくなった」で9名であった。

3位: ラグビーを始めた理由として3番目に多かったのは、「ラグビーはカッコいい」で、全部で8名がこれを選択していた。このうち1名は1番目の理由にこれをあげていた。

4位: ラグビーを始めた理由として4番目に多かったのは、「友だちがラグビーをしているから」で5名であった。

その他を1位にあげた者が1名いた。自由記述に書かれた理由は「学校が休めるし楽しい」であった。

以上、ラグビーをしている太平小学校の児童は、ラグビーの先生やコーチ、それに小学校の先生からの勧めではじめた者が多いことが分かった。また、ラグビーの練習をみて自分もしたくなったり、友だちがラグビーをしていたりということをはじめた理由にあげた者が多くみられた。つまり、学校でラグビーの課外活動が取組まれていて、その練習をみたり、友だちが参加したり、ラグビーのコーチや先生が勧誘している環境が、ラグビーをはじめ始めるきっかけの大きな要因であることがわかった。

家族や親戚にラグビー体験者がいる場合、そうした家族の体験者の影響があるのかないのかを聞くため、表2の(1)から(5)までの選択枝を用意した。家族内やいとこなどにラグビーをしている者がいると答えた者は4名(16%)であった。

これら4名のうち兄がラグビーをしているので影響を受けたとする児童は1名であった。ほかの3名は、家族内で父や兄・弟、それに父方の伯父がしていると回答したものの、そうした人の影響を受けたとする選択枝は選択していなかった。

<質問6 ラグビーが好きな理由>

ラグビーが好きな理由で得た回答数を整理したのが表3である。この質問では、もっとも好きな、つまり1番の理由があれば、その選択枝に◎をつけてもらった。

(1)1番好きな理由

1番好きな理由をあげたのは8名であった。そのうちもっとも多かったのは、(1)の「一人はみんなのために、みんなは一人のためにという協力の考え方」で4名、2位が(6)「試合で勝つことが好き」の2名、3位が(5)「友だちができた」の1名であった。(11)その他も1名いた。

(2)ラグビーが好きな理由

特に1番目というわけではないが、ラグビーが好きな理由として選択されたなかでもっとも多かったのが、(6)

「試合で勝つことが好き」の14名であった。

2位が、(9)「疲れるけれども終わったときの充実感」で12名が選択していた。

3位が(1)「かっこいい」の11名、

4位が(5)「友だちができた」10名、

5位が9名で2つある。(3)「走るのが以前より速くなった」と(4)「身体が以前より強くなった」である。

7位が(7)「ラグビーの先生やコーチが好き」の8名、

8位が(1)「一人はみんなのために、みんなは一人のために」という協力の考え方」の7名であった。

(8)「父親もしているスポーツだから」をラグビー好きの理由にあげたのも2名みられた。これは全体の数から見れば2名にすぎないが、ラグビー体験者に父親がいるとあげた者が2名だったので、この2名とも父親がやっているスポーツだから好きだという理由を選択している。ラグビーをはじめのきっかけに父親の体験の有無が影響を与える可能性が考えられる。

表3 ラグビーが好きな理由

ラグビーが好きな理由	1位	1位以外	合計
(1)一人はみんなのために、みんなは一人のためにという協力の考え方	4名	7名	11名
(2)かっこいい		11名	11名
(3)走るのが以前より速くなった		9名	9名
(4)身体が以前より強くなった		9名	9名
(5)友だちができた	1名	10名	11名
(6)試合で勝つことが好き	2名	14名	16名
(7)ラグビーの先生やコーチが好き		8名	8名
(8)父親もしているスポーツだから		2名	2名
(9)疲れるけれども終わったときの充実感		12名	12名
(10)特にラグビーが好きな理由はない		3名	3名
(11)その他あなたがラグビーを好きな理由	1名	—	1名

<質問7 いつまでラグビーをしたいか>

いつまでラグビーをしたいかという質問7の回答をまとめたのが表4である。1番多かったのは、決まっていない、あるいはわからないとする者が15名であった。過半数を占める。2番目に多かったのが、(4)「大人になっても続けたい」とする者で5名いた。(2)「高校まで」が2名、(1)「中学まで」が1名いた。その一方で、(5)「小学校でやめたい」とする者が2名いた。しかし、(6)「今すぐやめたい」を選択した者はいなかった。

アンケート調査の対象が小学生なので、高校とか大学とかのイメージをだきにくいかもしれない。しかし大人になっても続けたいとおもっている者が5名みられたのは、ずっと続けたいスポーツとして、漠然とイメージされているのではなかろうか。

表4 いつまでラグビーをしたいか

(1)中学生まで	1名
(2)高校生まで	2名
(3)大学まで	—
(4)大人になっても続けたい	5名
(5)小学校でやめたい	2名
(6)今すぐやめたい	—
(7)決まっていない・分からない	15名
(8)その他	—

<質問8-1 ラグビー以外でおこなっているスポーツ>

ラグビー以外でおこなっているスポーツがあると回答した者は17名、ラグビーだけという者4名、無回答4名であった。

次にどのようなスポーツをしているのかきいたところ、表5にあげたスポーツ名が書かれていた。

表5 ラグビー以外にしているスポーツ

バスケット	17名
サッカー	4名
バドミントン	2名
水泳、卓球、ポーリング、ビリヤード	各1名

ラグビー以外ではバスケットをしている者がもっとも多く17名。次がサッカーの4名、バドミントンの2名が見られた。2013年に釜石市で、ラグビーをしている中学生に同様の質問をしたときには、回答15名中、サッカーをしているという回答がもっとも多く6名、2位が空手の3名、3位が野球、バスケット、卓球の2名であった(原2014:42)。台湾と日本では、課外活動で好まれるスポーツの種類や人気度が異なっているのがみられる。

<質問8-2 あなたがしている他のスポーツとラグビーを比較すると何対何くらいでどちらが好きか>

ラグビーも他のスポーツもどちらも同じくらい好きだとする5対5がもっとも多く15名いた。

5対5に記入しながら、(6)「その他」に10対10と数値を書き込んだ回答が2名いた。どちらもとても好きだということの特に表現したかった回答だと考えられる。また(1)のようにラグビーが大好きだとする回答も3名選択していた。

表6 ラグビー対他のスポーツの好きな割合

(1)ラグビー-10 対他のスポーツ 0	3名
(2)ラグビー 7 対他のスポーツ 3	1名
(3)ラグビー 5 対他のスポーツ 5	15名
(4)ラグビー 3 対他のスポーツ 7	5名
(5)ラグビー 0 対他のスポーツ 10	0名
(6)その他	2名
無記入	1名

＜質問9 これまでの質問以外で、あなたがラグビーについて書きたいことがあれば書いてください（自由記述）＞

この質問に回答した者は9名であった。以下にそれを記す。特に人数を書いていない回答は1名から得た回答である。

- (1)ラグビーをするのは楽しい。達成感がある。
- (2)楽しい。みんなで協力し合わないといけないスポーツ
- (3)No.1のスポーツ
- (4)とてもおもしろいスポーツです
- (5)とてもおもしろい。でも痛い。
- (6)おもしろい。 2名
- (7)特にない 2名

＜質問10 何か感想があれば書いてください（自由記述）。＞

この質問については4名の者が記述してくれた。以下に記す。

- (1)ラグビーは繰り返し練習をしました。試合ではじめてみんなと一緒にしなければならぬスポーツだと実感しました。
- (2)とてもおもしろいと思います。
- (3)ラグビーをもっとしたい。
- (4)特にない。

質問9、質問10では似たような回答を得ることになった。どちらの回答でもラグビーをとてもおもしろいスポーツだととらえているのがみられる。ラグビーの素敵なところとして、ラグビーでよく使われる「一人はみんなのために、みんなは一人のために」の言葉をあげた回答が質問9と質問10で各1名みられた。質問6でラグビーが好きな理由でもこれを選択した者が多く（11名、44%）、ラグビーの魅力のひとつとなっているようである。

6 おわりに

太平国小の児童は、早い者で小学4年生からラグビーをはじめたといっている。これは、ラグビースクール釜石シーウェイブスジュニアに加入する子どもが、早い者で小学校入学前から始めているのと比べると、最初の開始学年が遅い。しかし、釜石シーウェイブスジュニアの場合、小学校に入った後に始める者もいるので、ラグビースクール内での開始時期が児童によっ

て異なっている。

また、太平国小では、小学校の課外活動としてラグビーをおこなっているのが、ラグビーだけではなくバスケットなど他のスポーツに取り組む児童が17名（68%）と多く見られた。

ラグビーがどのように始められるのか、特に世代間継承についてこれまで筆者は注目してきた。釜石シーウェイブスジュニアの場合、社会人ラグビーチームの新日本製鉄釜石の流れをくんだラグビースクールであるため、親がラグビーをしていたという体験者の師弟の割合が多く見られた。特に女子児童にその傾向が強く見られ、5名中5名が、祖父がラグビー体験者であると答え、4名が父親もラグビー体験者だと答えている（原2014：48）。

今回、台湾の小学生では回答した女子が1名しかいなかったため、これをもって断定や推測はできないが、その1名しかいない女子の父や父の兄（伯父）、それに兄、弟といった兄弟がラグビーをおこなっているラグビー一家であることは、注目される。

また、父親がラグビー体験者という男子児童が2名いたが、その2名とも、自分がラグビーを始めた理由に父親の影響をあげていたのも重要である。

台湾では、どのようにして子どもたちはラグビーをはじめののだろうか。男子と女子の違い、台湾と日本の違いに注目したデータの蓄積をしていく必要がある。

【注】

- 1 太平国民小学というのは、台中など他の地域にもあるので、同校のウェブサイトなどでは地域名も入れて表記されている。
- 2 釜石市にある釜石シーウェイブスRFCというラグビークラブ(新日鉄釜石の後継として2001年に設立された地域共生型ラグビークラブ)のジュニアクラブ。
- 3 台北市大同区太平国民小学公式サイト「学校歴年人数」より <http://web.tpes.tp.edu.tw/enable/modules/tinyd/index.php?id=1> 2016年1月11日閲覧
- 4 公学校とは、1898年に制定された台湾公学校令に基づき、主に台湾の漢人子弟の初等教育をおこなった教育機関（駒込1996：44-45）。
- 5 游鴻池校長へのインタビュー（2014年3月22日）、および台北市大同区太平国民小学公式サイトより（2016年1月10日閲覧）
- 6 台北市大同区太平国民小学公式サイトより（2016年1月10日閲覧）
- 7 台湾遠征に際して、同行するメンバーに配られたパンフレットのチーム紹介による。（台湾日本人会・公益財団法人交流協会2014「被災地児童支援・国際ラグビー交流プロジェクト 日台キッズラグビー交流2014」6-7頁）

このプロジェクトの主催は、台湾の日本人会体育厚生部会とそのラグビー同好会 FIVEWOODS (Taiwan Japanese Rugby Football Club) であった。企画・運営は日台交流委員会がおこなった。後援には、台北駐大阪経済文化弁事処、公益財団法人交流協会台北事務所、社団法人台湾日本人会、台北市紅十字会、

原英子

台湾の小学生にみるラグビーへの志向

—台湾台北市でラグビーをする小学生へのアンケート調査結果—

中華民国橄欖球協会、台北市体育総会橄欖球協会、日本ラグビーフットボール協会、岩手県ラグビーフットボール協会、釜石市、釜石市教育委員会が関わっている。また台湾の協賛企業が25社、日本の協賛団体が7団体のほか、大勢の個人協賛によって、釜石シーウェイブスジュニアの子どもたちの二度目の台湾遠征試合が実現した（台湾日本人会・公益財団法人交流協会 2014：1-3、10-17）。

8 シーウェイブスジュニアの第1回台湾遠征については、すでに報告している（原 2013）。

9 このときの試合は新聞等でも紹介された。

毎日新聞「ラグビーでキッズ交流 釜石のジュニア選手ら台湾訪問」2014年3月23日

アジア経済情報紙 The Daily NNA 台湾版「日台少年がラグビーで交流、岩手のチームを招待」2014年3月24日

10 原英子 2014「岩手県のラグビー(2) 現在の釜石のラグビー状況—アンケート調査結果より—」（『岩手県立大学盛岡短期大学部研究論集』第16号）37-42頁

11 「いる」に印をつけた者は3名であったが、兄に影響を受けたとしながら、この部分に印をつけていなかった1名をたして、4名として数えた。

【参考文献】

駒込武

1996『植民地帝国日本の文化統合』岩波書店

台湾日本人会・公益財団法人交流協会

2014「被災地児童支援・国際ラグビー交流プロジェクト

日台キッズラグビー交流2014」（パンフレット）

原英子

2013「台湾でのラグビー交流と日本郵船——東日本大震災被災地への支援の背景——」（南島史学会編『南島史学』81）

(169)-(188)頁

2014「岩手県のラグビー (2) 現在の釜石のラグビー状況

——アンケート調査結果より——」（『岩手県立大学盛岡短期大学部研究論集』第16号）37-42頁

毎日新聞

2014「ラグビーでキッズ交流 釜石のジュニア選手ら台湾訪問」（2014年3月23日朝刊）

【参照ウェブサイト】

アジア経済情報紙 The Daily NNA 台湾版

2014「日台少年がラグビーで交流、岩手のチームを招待（2014年3月24日）（<http://www.nna.jp/>）

台北市大同区太平国民小学公式サイト

（2016年1月10日閲覧）

http://web.tpes.tp.edu.tw/enable/search.php?query=%A5%BB%AE%D5%B0%D1%A5%5B%A5%FE%B0%EA%A4C%A4H%A8%EE%BE%F1%C6V%B2y%C0A%BC%D0%C1%C9%BAa%C0%F2%B2%C4%A4T+%A6W%A4%CE%B7s%A5_%A5%AB%A4C%A4H%A8%EE%B2%C4%A4%AD%A6W&action=results

【謝辞】

本研究は、台湾台北市大同区太平国小の游鴻池校長、同校ラグビークラブのコーチの方々、チームメンバーの子どもたち、釜石シーウェイブスジュニアをご指導の米澤明校長、コーチの方々、ご父兄の方々、ジュニアチームの子どもたち、台湾の日本人会体育厚生部会とそのラグビー同好会 FIVEWOODS

（Taiwan Japanese Rugby Football Club）の皆様方をはじめとする多くの方々にたいへんお世話になりました。この場を借りてお礼申しあげます。